



学校教育目標の達成に向けて

<はじめに>

急速なテクノロジーの発展、感染症の蔓延など、予測困難な「VUCA」と言われる時代の中で、生徒一人一人が、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手となることや、幸せや生きがいを感じ、社会全体が豊かさを感じられるようになる(ウェルビーイングの向上)ための教育の在り方が求められております。

<令和の日本型学校教育>

学校においては、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」のよさを更に発展させ、子どもたちに未来社会を切り拓く資質・能力を確実に育むことが求められており、本校では「個別最適な学び」(個々の習熟度や興味に応じた学習)と、「協働的な学び」(多様な他者とよりよい考えを生む学習)を充実させる取組を進めております。

その様子は、随時、学校だよりやホームページで紹介していきますが、年間の取組の概要を本紙(特別号①)、具体を別紙(特別号②)でご紹介いたします。

<学校教育目標>

学ぶ人・思いやる人・鍛える人

<目指す学校像>

すべての人にとって学校は楽しいところ
(ウェルビーイングを育む学校)

<目指す生徒像>

- (1) 意欲的で粘り強く、向上心旺盛な生徒
- (2) 明るくたくましく、心豊かな生徒
- (3) 力を合わせ、創意工夫する生徒

<教育活動の具体>

学校教育目標の達成に向けて、知・徳・体を一体で育む教育活動の具体として、①安全指導の取組、②学力向上の取組、③体力向上の取組、④豊かな心を育む取組、⑤小中連携(学びをつなぐ)の取組を行います。(別紙「緑風」特別号②参照)

<目標達成の合い言葉「頑張ることは格好いい!」>

例え悪条件でもpositivelyに、最善を尽くすことで得られる経験があります。その一つ一つが自信になり、人をたくましくしてくれます。「頑張ることは格好いい!」を合い言葉にしながら、そんな経験の一つでも多くプレゼントしたいと思っています。

「雨は誰にでも降るんだよ。ただ、その時に、かさを持っていない人もいるってこと」(にしむらえいじ)

子どもたちを待ち受ける数々の試練、それを「雨」に例えたら、濡れるに任せるのではなく、「かさ」を持って歩ける子どもたちになってほしい。

登校支援の取組

<学校の願い>

社会的な自立に向け懸命の努力を続けている生徒の取組みを学校として応援したいと思っています。学習はもちろん、人とのつながりから生まれる感動や共感、心のぬくもりや情熱などにふれることで人は成長します。学校に登校することが全てではありませんが、できるだけ多くの経験、充実した生活を送れることを願い、本人・ご家庭と相談しながら登校支援を取り組みたいと思います。

<具体的な取組> 選択しながら段階的に



<相談窓口>

教頭、担任の先生、三浦麻先生(教育相談コーディネーター)



令和6年度 帯広市立緑園中学校 グランドデザイン

学校教育目標

学ぶ人 (生涯学び続ける人)
 思いやる人 (豊かな人間性を持つ人)
 鍛える人 (心身の健康を図る人)

目指す学校像

～すべての人にとって
 学校は楽しいところ～
 ・生き生きと活動する学校
 ・信頼され、連携する学校
 ・切磋琢磨する学校
 (Well-beingを育む学校)

目指す教師像

～「チーム緑園」で
 教師力の向上～
 ・教職に対する熱い情熱
 ・教育の専門家として確かな力量
 ・総合的な人間力

目指す生徒像

～夢と自信をもって
 生き生きと～
 ・向上心旺盛な生徒
 ・たくましく心豊かな生徒
 ・創意工夫して実践する生徒

今年度の重点目標

『自己肯定感をもち向上できる生徒の育成』
 <スローガン>
頑張ることは格好いい!

授業力の向上

- 緑園スタイルの授業の進化
 - ・課題とまとめ、振り返り
 - ・授業の流れが分かる板書
 - ・話し合い活動の充実
- 対話トレーニングを活用した授業
- 理論研究と全員の授業公開
- 自己評価・相互評価による授業検証
- 学習指導要領をふまえた研修
- 検証改善サイクルの活用
- 各種学力調査の分析と対応
- エリア公開研究会に向けた取組

学ぶ意欲の向上

- 自己肯定感をもち主体的に学習する態度の醸成
 - ・自主的なChromeBookの活用
 - ・学習環境の充実
 - ・数学教室と英語教室の活用
 - ・自学ノート等の活用(学習履歴の見取り、家庭学習の定着)
- 学習習慣の確立
- TTや学習会等、学習する場の充実
- 学習規律の徹底(小中連携)
- 緑園タイムの活用(考えをまとめ、伝える場を設定)

豊かな心・自己や集団を高める意識の向上

- 生徒指導の視点を生かした教育活動の推進
 - ・自己決定の場
 - ・自己存在感を得られる集団
 - ・共感的な人間関係
 - ・安全安心な風土
- 協働的な学びの充実
- 全教員による考え・議論する道徳の実践
- 寄り添う指導と統一した指導
- 受容的態度と共感的理解に基づく生徒理解
- 生徒指導委員会の定期的な開催

評価分析

(教職員・生徒・保護者・学校運営協議会)

- 各種学力調査結果より取組の成果と課題を分析、短いスパンで対応する。
- 各種アンケートにより、自己肯定感「自分には良いところがある」や学習の主体性「家で計画的に学習している」、困り感「考えをまとめ、伝えることが難しい」など、生徒の実態を把握し、取組を見直して対応する。
- 学校評価等の結果より取組を多面的に評価し、改善を重ねる。